グラバア俊子　名誉教授　略歴・業績

略　歴

1947 年 9 月 26 日	長野県に生まれる
1970 年 3 月	立教大学文学部卒業
1973 年 3 月	立教大学大学院文学研究科修士課程修了
1973 年 4 月	南山短期大学人間関係科助手
1975 年 4 月	南山短期大学人間関係科講師
1978 年 1 月	ボストン大学大学院教育学部修士課程人間性と行動研究科修了
1985 年 4 月	南山短期大学人間関係科助教授
1994 年 4 月	南山短期大学人間関係科教授
1998 年 4 月	南山短期大学人間関係研究センター長（2000 年 3 月まで）
2000 年 4 月	南山大学人文学部教授（改組による学部所属変更）
2010 年 8 月	南山大学人文学部心理人間学科長（2012 年 10 月まで）
2016 年 3 月	南山大学退職
2016 年 4 月	南山大学名誉教授

学　会

立教大学キリスト教学会会員（1973.4 ～現在に至る）
人間性心理学会会員（1983.4 ～現在に至る）
南山大学人間関係研究センター研究員（2000.4 ～ 2016.3）
日本ソマティック心理学協会顧問（2014.3 ～現在に至る）

業　績

〈著書〉

1．ボディー・ワークのすすめ―からだと自己発見（創元社，1988），243pp.
2．ボディーワーク・セラピー［共著］（JICC 出版局，1992），243pp.
3．人間関係トレーニング［共著］（ナカニシヤ出版，1992），174pp.
4．五感と健康［共著］（明治生命厚生事業団，1993），80pp.
5．心とからだの安らぎ［共著］（大蔵省印刷局，1994），269pp.
6．「人間社会を切り拓く教育の冒険」フィールド・ワーク報告（1980 ～ 1990）［共著］（南山短期大学人間関係科，1994），160pp.
7．カウンセリングの実習―自分を知る，現場を知る［共著］（北樹出版，1998），220pp.
8．私という迷宮セルフ・クエストのすすめ［単著］（日本評論社，1998），237pp.
9．新・ボディワークのすすめからだの叡知が語る私・いのち・未来［単著］（創元社，2000），355pp.
10. 子どもの対人関係能力を育てる―子どもの心と体をひらく知識と技法［共著］（教育開発研究所，2002），244pp.
11. ファシリテーター・トレーニング―自己実現を促す教育ファシリテーションへのアプローチ［共著］（ナカニシヤ出版，2003），187pp.

12. 人間関係トレーニング第２版［共著］（ナカニシヤ出版，2005），198pp.
13. 南山大学連続講演会講演集「人間の尊厳のために」［共著］（（株）エヌ・イー・エス，2006）220pp.
14. 四天王寺カウンセリング講座　9［共著］（創元社，2009），184pp.
15. 五感の力［単著］（創元社，2013），262pp.
16. ソマティック心理学への招待［共著］（コスモスライブラリー，2015），315pp.

〈学術研究論文〉

1．「非言語コミュニケーション非言語実習の教育的一考察（修士論文）」［単著］（1973/03）157pp.
2．「教育の方法としての非言語実習」［単著］『教会教育』第 21 巻 7 号　（1973/07）25–30pp.
3．「体験学習（Experiential Learning）―その 1―」［単著］『南山短期大学紀要』第 4 号（1976/01）117–129pp.
4．「体験学習（Experiential Learning）―その 2―個人成長（Personal Growth）の手がかりとしての五つのライフスキル」［単著］『南山短期大学紀要』7 号（1979/01）101–120pp.
5．「ボディー・ワーク試論―自己成長の手がかりとしてのからだ―」［単著］『南山短期大学紀要』第 10 号（1982/12）53–66pp.
6．「ボディー・ワーク試論 2―教室からの報告―」［単著］『南山短期大学紀要』第 12 号（1984/12）121–141pp.
7．「南山短期大学人間関係科の 10 年」［共著］『人間関係』第 2・3 号合併（1985/03）83–216pp.
8．「自己表現ワークショップからの報告　ワークショップ 4―オイリュトミー」［単著］『人間関係』第 4 号（1987/03）60–70pp.
9．「T グループ　再考」［共著］『人間関係』第 7 号（1990/03）35–153pp.
10.「ボディー・ワーク　―からだを通しての自己成長―」［単著］『現代のエスプリ「ニューセラピー」』283（1991/02）149–157pp.
11.「第二の大航海時代の生涯学習」［単著］『人間関係』8 号（1991/04）81–93pp.
12.「授業記録：人間関係原論（1989 ～ 90 年度）―学生とともに人間関係の原点をさぐる―」［共著］『人間関係』第 9 号（1992/03）107–145pp.
13.「ボディ・ワークのすすめ―からだ・未来への指針―」［単著］『体育の科学』Vol. 43（1993/07）526–529pp.
14.「ナースのためのボディ・ワーク入門」［単著］『日本総合研究所「主任＆中堅」』第 1 回（1995/06）20–25pp.　第 2 回（1995/07）43–48pp,　第 3 回（1995/09）122–127pp.
15.「いのちにたどり着くまで―からだの叡智が導いた所―」［単著］『人間関係』第 13 号（1996/03）25–34pp.
16.「ふれる―いのちにふれる―親密さを支えるボディ・ワーク」［単著］『現代のエスプリ「親密さの心理」』353（1996/12）145–153pp.
17.「感受性と癒し―からだの叡智・こころの叡智」［単著］『現代のエスプリ「表現と癒し」』413（2001/12）177–187pp.
18.「教育の新たな冒険―ホリスティック・ヒューマン・トリニティへ向って」［単著］『人間関係研究』創刊号（2001/12）185–197pp.
19.「「空間の性格」で大学を生かす：建築空間提案～空間・時間・人間とのホリスティックアプローチ～」［共著］『京都大学高等教育研究』8 号（2003/03）113–129pp.
20.「パキスタンにおける人間関係トレーニングの実践と考察―HRT のマスタープランづくり―」［共著］『『人間関係研究』』Vol. 2（2003/03）133–149. pp.
21.「カンボディアでの人間関係トレーニング（HRT）の実施」［共著］『人間関係研究』Vol. 2（2003/03）166–182. pp.

22.「エンパワメントとボディワーク―誰でものエンパワメント―」［単著］『人間関係研究』Vol. 3（2004/03）107−121pp.
23.「体験学習の可能性を探る―ゴウラー財団のプログラムを例として―」［単著］『人間関係研究』第 6 号（2007/03）48−98pp.
24.「からだの座標―からだの置かれている現状―」［単著］『アカデミア　自然科学・保健体育編』第 14 巻（2008/01）103−108pp.
25.「実習「オープンアップ」」［共著］『人間関係研究』第 7 号（2008/03）111−115pp.
26.「実習「メッセンジャーライン」」［共著］『人間関係研究』第 7 号（2008/03）123−140pp.
27.「実習「心の四つの窓―ジョハリの窓を活用する―」」［共著］『人間関係研究』第 7 号（2008/03）161−173pp.
28.「フィードバック再考」［単著］『人間関係研究』第 8 号（2009/03）69−88pp.
29.「大学教育における体験学習の未来」［共著］『人間関係研究』第 10 号（2011/03）1−31pp.
30.「T グループにおけるトレーナーのファシリテーション、学修観・トレーニング観に関する質的研究」『人間関係研究』第 11 号（2012/03）55−95pp.
31.「人間関係領域におけるフィールドワークの教育プログラムとしての可能性」[共著］『アカデミア　人文・自然科学編』第 5 号（2013/01）1−21pp.
32.「体験学習の広がり　　対人援助職のためのボディワークプログラム構築の試み」［共著］『人間関係研究　2015　第 14 号』14 号（2015/03）205−212pp.